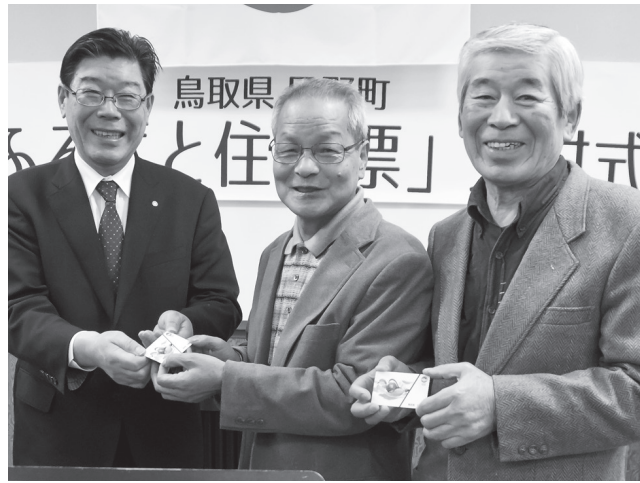


# 「ふるさと」との絆を深め 活気あるまちづくりを

「ふるさと住民票」制度がスタート、交付式を開催



▲カードを手に笑顔の小谷さん(中央)、田貝さん(右)  
▶ふるさと住民票カードには、町の鳥・オシドリをデザイン



## 全国で初めて

### 「ふるさと住民票」を交付

町では、まちにゆかりのある人に町の情報を提供し、つながりを深めてもらうため、全国で初めての試みとして、「ふるさと住民票」制度を創設しました。

2月22日には、制度のスタートを記念し、町役場で、「ふるさと住民票」交付式を開催。登録者を代表して、

日野町出身の小谷誠さん(兵庫県神戸市)、田貝守さん(米子市)に、景山町長から「ふるさと住民票」カードが手渡されました。

離れて暮らすふるさと  
そのつながりを確かに

ふるさと住民票は、さまざまな分野の政策の立案や提言を行う研究機関「構想日本」が、日野町を含む全

国8市町村と共に提唱。その後、1市3町が賛同し、制度の導入に向け、検討・準備を進めています。

この制度は、住民と自治体とのかわりが多様化する中で、仕事などでふるさとを離れて暮らす人、居住地ではない自治体とのかわりを求めている人など、「住民票はなくてもまちづくりにかわりたくないと希望する人」に、まちづくりへの参加や必要なサービスを提供し、自治体とのつながりを確かにすることを目的としています。

## 町とのつながりを深め 移住に結び付けたい

交付式では、景山町長が「町で生まれ育った人にとって、ふるさとはいつまでも心に残るもの」と話し、「どこにいても日野町を感じてもらい、皆さんの力を借りて活気あるまちにした」とあいさつ。

登録第1号となった小谷さんは、「ふるさと日野町への思いがさらに強くなった。町には、帰省者が増えるよう空き家を活用してほしい」と話しました。

田貝さんも、「アユ釣り大会など、日野川のアユを復活させるような活動をした。また、町への施策などの提言にも積極的に参加していきたい」とふるさとへの思いを語りました。

登録者には、広報紙や町内イベントなどの情報を毎月提供するほか、町の計画や政策への意見募集など、外の視点でのまちづくりの参加を呼び掛けていきます。また、「ふるさと・日野町」の意識を持ってもらうことで、将来的には、ふるさと納税やUターン、孫ターンによる移住につなげたいと考えています。

なお、登録の対象となる人は、町の出身者など、町に何らかのゆかりのある人ですが、今後、ふるさと納税を行った人や日野高校の卒業生、町内に通勤、通学している(していた)人についても登録を広げていく予定です。

登録はいつでも受け付けています。皆さんの友人など、町にゆかりのある人へ、この制度をご紹介ください。

## 「ふるさと住民票」のご案内

### 提供するサービス、取り組み

- ・ふるさと住民票の発行
- ・町広報紙などの発送、祭りや伝統行事、文化芸術の催しの案内
- ・町の計画や政策などのパブリックコメントへの参加
- ・公共施設の住民料金での利用 など

### 対象者

- ・日野町出身者
- ・ひの郷会、東京金持会、鳥取県人会などに所属している人など、日野町に何らかのゆかりのある人

### 登録申込みおよび問合せ先

〒689-4503 鳥取県日野郡日野町根雨 101  
日野町役場企画政策課  
電話：0859-72-0332、FAX：0859-72-1484  
E-mail：kikaku@town.hino.tottori.jp



# 地道な活動とスポーツでの活躍を表彰

## 日本海新聞ふるさと大賞2015表彰式



受賞を喜ぶ多賀さんと小谷さん（中央2人）

や町内外での講演活動など、幅広い分野で地域に貢献していることが認められたものです。小谷代表は「西部地震以降、地道に活動してきたものが認められうれしい。この活動に勇気と誇りを持ちながら、今後も続けていきたい」と喜びを語りました。



高校生活の有終の美を飾った多賀さん

県内の地域発展やスポーツ振興に功績のあった人を表彰する、日本海ふるさと大賞・日野町の部の表彰式が、2月22日、町役場で行われました。今回は、地域貢献賞に日野町ボランティア・ネットワーク（ひのぼらねっと・小谷博徳代表）の皆さんが、スポーツ功労賞に多賀涼さん（根雨）の2組が選ばれ、賞状と記念品が贈られました。

また、スポーツ功労賞を受賞した多賀さんは、米子工業高校陸上部でやり投げ種目に励み、第68回中国高等学校陸上競技対抗選手権大会で3位に入賞し、全国大会に出場。年間を通して優秀な成績を残したことが認められました。多賀さんは、「これまでの成績が認められ、とてもうれしい」と話し、「これからもスポーツを続け、何らかの形で町に貢献し、地域を元気にしていきたい」と抱負を語りました。

# 「日野町ブランド」発信の取り組み始まる

## 東京と大阪に「まめなか屋」、町特産品を出品



昔なつかしふるさとの味「じゃぶ汁」も大人気

町の豊かな自然で育ったコメやシイタケなどの特産品の販路拡大と地域ブランド化を図ろうと、生産者らを中心に発足した「日野町特産品ブランド化推進会議」が、東京と大阪の2カ所の店舗などに出店し、多くの人が訪れました。

出店には、町の特産品を分かりやすく全国へ発信するため、ブランド名を「まめなか屋」「まめなか市」とネーミング。2月の13日と14日の2日間、東京都新橋のアンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」に出店。奥日野海藻米や鈴原糯、エゴマ油といった特産品のほか、じゃぶ汁なども振る舞われました。特に、原木シイタケを具材に使った奥日野きのこバーガーは、大人気で、東京でもそのおいしさや関心の高さを証明しました。

また、2月17日から22日の6日間、イトーヨーカドー八尾店（大阪府八尾市）の「山陰いいものマルシェ」に出店しました。会場では、特産品を直に味わってもらおうと、海藻米や鈴原糯の試食コーナーも設け、多くの人がそのおいしさに感心していました。

今回の経験をもとにした、特産品のブランド化への今後の取り組みに期待が高まります。Opitatus. Uda



地域おこし協力隊の高下さんも笑顔で対応